

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	階層的数値モデル群による短寿命気候強制因子の組成別・地域別定量的気候影響評価
研究代表者	竹村 俊彦 (九州大学・応用力学研究所・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、エアロゾルやオゾンなどの短寿命気候強制物質が気温・降水量などの気候要素に与える影響について、応募者らが開発した複数の数値モデルをシームレスに結合させて定量的な評価を試みるものである。特にこれまで不確実性の大きかった雲や降水過程を精緻化する点も大きな特徴である。</p> <p>気候変動を議論する上で不確実とされる「エアロゾルと雲の相互作用」の解明に取り組む研究であり、学術的にも重要で、新規性も高いと評価できる。時間と空間スケールの異なるモデルを有機的に結合した成果の導出と併行して、衛星観測等による比較検証で精度を高めることにより、当該分野の研究を国際的にけん引することが期待できる。</p>